

第5回中原区区民会議課題調査部会会議録摘録

1 開催日時 平成25年10月30日(水) 午前10時00分～午前12時00分

2 開催場所 中原区役所5階501会議室

3 出席者

委員 板倉部会長、藤嶋副部会長、稲富委員、梅原委員、反町委員、塚本委員、寺岡委員、中山委員、橋本(満)委員

事務局 小野副区長

企画課 今井課長、江口担当係長、倉見担当係長、深谷職員、大崎職員、野並職員

地域振興課 日向課長

社会空間研究所 中島、栗林

4 議題

(1)「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流」に関する調査検討について(公開)

(2) その他(公開)

5 傍聴者 なし

6 会議内容

(1) 正副部会長の互選について

事務局から部会長を板倉委員、副部会長に藤嶋委員を推薦。了承される。

(2) 会議録確認委員の選任

稲富委員を選任した。

(3) 審議テーマ「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流」に関する調査検討について

事務局 検討の方向性の確認、資料の説明。

板倉部会長 中原区まちづくり推進委員会では、「なかはらまち探検こどもと行こう!体験ツアー」を実施する。ブログに出したら3日間で満員になった。ねらいは、商店街と子ども達を結び付ける。それから高層ビルが沢山建っているので、高層ビルの上から下を見学する。井田の商店街の中の醤油工場の見学。中原図書館で図書を借りる体験をする。2回目として12月にフォトブックをつくる計画をしている。

藤嶋副部会長 中原文化協会では、「ニヶ領用水の歌」を作って4年になる。一般的に広めていきたいと思うので、いろいろなところで使って欲しい。中原ミュージカルの時もこの歌を使っている。もし活用出来たら是非使って頂きたい。中原音頭というのも昔からあるが、古くて使えない。

中山委員 産業地の華やかな頃がモデルになっているので、それに抵抗がある方もいる。

事務局 中原区の全部の魅力を発信するのは難しいと思うが、出来そうなところから連携して、一つのモデルを作って、他のところに反映させていくのはどうか。絞って、集中して行ったらどうか。

藤嶋副部長 宮前区も区制 30 周年の時に小・中学生の作品を募集した。それが面白くて魅力的だった。

事務局 宮前区ではそれを引き延ばしたもので、いろんなイベントを行っている。川崎区にもかわさきカルタがある。イベントに使われていたりする。また、中原区は自転車の利用が多く、マナーやルールについての蓄積もあるので、それらを使ってアピールをしながら自転車で巡る魅力をネットワークしていくのはどうか。

反町委員 先程、カルタの話も出たが、イベントに絡めてこどもたちに楽しく伝えていく意味では、紙芝居も面白いのではないか。以前防災関係の紙芝居もつくらせて頂いたことがある。専門ではないが、そういうノウハウがあるので、地元の NPO として、お手伝いをさせて頂きたい。

自転車のマナーの話が出て、川崎市でつくる「自転車安全利用法則」というのがあって、安全の為に映像で広く周知するための新しい動画をつくるのを NPO 法人カワサキミュージックキャストが担当した。

30～40 年前の中原音頭があるのはすごいが、出すべきではない。「二ヶ領用水の歌」や今まだながれている「中原のうた」がある中で新しい歌をつくるのはどうかなと思う。元の歌がよいので、うまく活用・アレンジしたらどうか。今ある曲をアーティストにアレンジしてもらい、特別バージョンにしてもらってはどうか。

藤嶋副部長 「二ヶ領用水の歌」を子ども達が合唱団で歌ってくれるという事で、それなりのテンポにしている。

反町委員 アレンジしたものを子ども達が歌いやすい様にして頂きたいと思う。

事務局 「川崎市民の歌」は、各小学校でうたわれていたり、ゴミの収集車でながれていたりしている。

反町委員 ゴミの収集車で流れるのが、有名である。

事務局 小学生は、音楽の時間にやっている。歌詞も覚えるのでよいと思う。せっかく、「中原のうた」や「二ヶ領用水の歌」があるので、何かどこかで使ってもらえたらよいと思う。その歌詞の中に中原の魅力や二ヶ領の魅力が入っているので、それを歌っているうちに自然と覚えていく。学校で課題曲として使ってもらうことが出来るのではないかな。

中山委員 中原の魅力資源ということになると、歴史文化・名所・旧跡に限られてしまうが、いま話している歌のようなものは種類が違う。例えば、何かをするときはどうぞ来てくださいと待ちの状況になっていることが多い。いかに人集めをするかということが課題になっている。新丸子の駅前の和菓子屋さんに八百八橋や丸子の渡しのお菓子があったりする。中原区内をみれば、名所・旧跡も沢山あると思うが、そういうものも入れる方法もある。名所・旧跡・歴史文化にとらわれないでいったほうが良いのではないかな。

事務局 歴史というものだけにとらわれずに。

中山委員 八百八橋にしても丸子の渡しにしても過去にあったもの。それを現在お菓子として残している。そういうものも探してみたらどうか。

塚本委員 マンションに住んでいる人達からすると、知らないことが多い。既にある素晴らしいものが沢山あると思うが、知らない。今回このためだけに新しいことをやるよりもまずは今あるものを住民目線で再編集して、出かけたくなる広報の仕方をやってみる。先程いわれたように少し広報しただけで、いっぱいになってしまうというやり方でよいと思う。交流できるということであると、30名ぐらいが限度だと思う。大きなイベントを行っても、それが必ずしも交流にならない。小さいツアーが季節ごとや月ごとに沢山あって、いつでも申し込めるような手軽さが必要だと思う。

事務局 市民活動団体の共通の話題になるが、団体の活動が一般の方に届いていないのが事実としてある。

塚本委員 住んでいる側からの目線で編集するのが大事だと思う。マンションでいうと20名で集まれる場が意外と少ない。他都市事例にあったお寺の土日開放という情報があれば、マンションの理事会をお寺でやるかもしれないし。こういうことに利用できるという情報がほしい。子ども連れの方には、こういう施設があるという情報が必要だと思う。

中山委員 例えば、中原歴史散歩の会は、地域振興課と一緒に講座を開いている。講座を開いて座学をやって、歩いたりしている。皆さんに応募をして頂いて、来てもらっている。自分達のやり方が行けないのかと考える所もあるが、最初の1・2回みえてもあとは続かない。会を催す方も考えてやらないと、ただパンフを作っ出せばよいというのは、難しくなっている。いかに人集めをしたらよいのか。発信の仕方を考える必要がある。

藤嶋副部長 かわさき郷土研究会にも入っているが、3ヶ月に1回ずつぐらい、いろんな所に行っているが、まず人が集まらない。会を行っている人たちが魅力を考えずにそこだけにいってしまう。

事務局 「なかはらまち探検こどもと行こう！体験ツアー」の人がいっぱいになった理由は何でしょうか。

板倉部会長 ブログに応募してきた。

事務局 そのブログが目にとまったのはどうしてか。

板倉部会長 常にみているのではないかと思う。

橋本委員 チラシをおいてある場所が区役所とかに限られていて、子ども向けの会ならば、小児科とかに置かせてもらう。配布するものが対象者の手に入りやすいところに置かないと意味が無い。

事務局 ニーズがあるところに手の届くようにおくことが重要だと思う。

橋本委員 保育園や幼稚園にチラシ等がいけば目に留まる。

稲富委員 チラシは町内会の回覧にまわったりしないのか。

塚本委員 マンションでは、掲示も回覧もほとんどない。全戸配布には、制約がかかっている。

稲富委員 マンションの中では、回覧というものは無いのですか。

塚本委員 ほとんどない。

中山委員 町内会では、難しい。町会長の采配によって回るものと回らないものがある。掲示板の方が役に立つと思う。

事務局 タウンニュースとかはどうか。

中山委員 かえって、よいと思う。

事務局 なかはらメディアネットワークとして発信できるのでは。

事務局 前にご説明させて頂いたが、この9月に発足した「なかはらメディアネットワーク」というものを各媒体に協力して頂いて、中原区の情報を提供していく。なかはらメディアネットワークのPR自体も区役所が進めていて、リーフレット・ポスター等も町内会・自治会に配布している。その他に区役所と区役所の別館・市民館・図書館等5ヶ所にコーナーを設けて、イツコムの中かはらスマイルの情報や、かわさきFMやKpressの情報などメディアの情報のリーフレットを置いて、皆さんにPRしている。今後なかはらメディアネットワーク通信も毎月作って、皆さんに周知を図っていこうと思っている。行政としても周知できる情報コーナーを少しでも増やしていきたいと考えている。

事務局 例えば、文化協会さんのイベントを通じて出してほしいということならできるのか。

事務局 現在、各メディアの独自取材であるが、例えばイツコムの中かはらスマイルでは、地域の活動団体の紹介を5分の番組の中でおこなっている。来年以降、仮に予算が付けば、行政の方で行政主体の番組づくりをして、行政情報とか地域のイベント情報・団体の情報をもっと積極的にPR出来るようになる。

塚本委員 団体だからこそいいというところもあって、行政だと平等にとりか制約がかかっている。今回、「ママとKidsの街歩き」は全戸配布した。うちのマンションの住人にとっては必要だということで、配布しても良い場合もある。

事務局 いずれにしても行政の取り組みとして、地域のイベント情報とか行政の情報をこういう媒体に積極的に提供している。

寺岡委員 川崎は、昔は公害のまちでイメージが良くなかった。現在は、工場も環境改善を行っている。中原区民に工業を知ってもらいたい。工場の見学も行っているのも、そういう所に親子で見学に行くと、子どもの創意・工夫やコミュニケーションに役に立つと思う。

事務局 等々力工業会に行った時に展示場があったり、万華鏡があったりした。学校を回ったりしているのか。

寺岡委員 一部は、学校を回っている。3〜4年前から視察しているが、浸透していない。今年は、応募があって、万華鏡とかをつくる体験を子どもが出来る。中原の工場関係も見直してほしい。

中山委員 大型の万華鏡は、トラック1台だったりする。

寺岡委員 扇島の方に昨年売れてしまい、今は無い。花瓶を作ったりは出来る。

事務局 中原区には、資料にも示したとおり、資源も沢山あるし、活動も沢山行っているが、広く周知されていない。活動として中原区の良さが出ているが、それをどうやって広報するのか。いろんなイベントに参加してもらう事で、交流につながっていく。

寺岡委員 先週、小杉フェスタがあり、今年で3回目である。人が沢山で、これを利用したら新旧住民の交流に良いと思う。9月に川崎フロンターレの試合の前に交流団体がでていた。フロンターレを利用するのも活性化につながる。

事務局 フロンターレで人が集まるから、そこに合わせてアピールしたいものを提示できるとよい。

事務局 Jリーグ40ぐらいチームがあるが、フロンターレが試合の前に「川崎市民の歌」をうたって、連帯感がある。

藤嶋副部長 ボーイスカウト協議会さんは、何かあるか。

梅原委員 ボーイスカウトでやっている集会に自転車で来る子どもたちのためにボーイスカウトで「自転車運転免許証」というのをつくっている。それを取らないと集会に自転車で行くことが出来ないという規則をつくっている。自転車免許証をもらう為に自転車の安全の知識や実際にグラウンドで自転車を走らせることを行っている。ボーイスカウトに参加していて、自転車で集会に来る子どもは、自転車に関する安全は理解している。ボーイスカウトの中だけではなくて、一般的に小学生を対象にして自転車運転免許証をとるような啓発運動を行うと良いと思う。

藤嶋副部長 自転車でいろんなところにいくのもよいと思う。

梅原委員 PRの方法だが、行政が一生懸命やっているということだが、PRの方法は非常に大変で、ボーイスカウトを知らない人もいるので、どうしたら活動を知ってもらえるのか、苦慮している。ラリーを行ったり、区民祭の時に音楽のパレードに出る予定としている。こういう事をやっているとしてPRする方法をどうしたらよいか考える。今の所、タウンニュースに出しているが、お金がかかる。これだけの団体がどういうことをしているのか、普段は気にならないが、もっと出てくるようなチャンスがあればいいのか、もっと知られたいのなら、団体をまとめている人にどういうことをやっているのか話を聞けばよい。沢山の会員を募集している団体もあるので、事情を分かってもらった方がよい。歴史・文化にこだわらないと先程お話があったが、元住吉の商店街は、ブレーメン音楽祭を行っている。「音楽のまちかわさき」といっているので、中原区の方で音楽祭をやるとか、イベントを行ったらどうか。

もう一つ、中原区のいろんな場所を提示されたが、誰に聞いたらいいのか。その状況を知っている方は誰なのか、わからない。その中にボランティアガイドの育成というのがあり、大事だと思う。歴史を探訪する会というのがあるが、鎌倉に行ってもどこに行っても、地域のボランティアガイドさんが出てきて説明してくれる。中原区にボランティアガイドという仕組みが有るのか、無いのか。あれば、非常に役に立つ。あと、イベントをやる時の主体や、目的がないとイベントはやりにくい感じがする。

事務局 ボランティアガイドは、いろんな都市で行っている。

中山委員 スタッフとしては、「中原歴史散歩の会」である。「中原散策ガイドの会」は、約5年前から小杉に新しい人たちが入り始めたころ、中原街道の高い所に住む人たちと手を結ぼうということで、市民提案型事業としてスタートした。「中原散策ガイドの会」に入って、ある程度の講習をとることがあったが、今は講習を無くし

て、入りたい方は入ってください、となり、月に1回の定例会をしている。ガイドとは違うが、歴史文化に関わる活動団体の一覧表的なものが区役所にあれば非常に助かる。

板倉部会長 それはある。現在登録は、200件。

中山委員 活動に関わる団体だけのリストも必要だと思う。

藤嶋副部会長 川崎郷土芸能保存会というのがある。

塚本委員 商店街のマップを以前作ったことがあったが、その時に商店街組合に入っているかどうか、マップに載せる最大の優先順位だった。入っていない商店を載せるわけにいかないということで、出来上がったものは電話帳のように分厚いもので網羅されているが、自分が行きたい店が見つけない、という意見があった。

こういう団体の情報を整理して頂くのは良いが、網羅性よりも住民が自分にとって必要な情報なのか分からせるインターフェイスの方が重要である。

事務局 整理すると皆さんが行っている地域住民との交流や魅力を知ってもらう為の機会を行っていて、既存で行っているものは大事にして活用する。発展していく為にはアピールしないといけなくて、多くの方が参加してくれる、情報がそこに行き届いているところが大事である。ここで行っているような活動をどう発信して、区の住民の方に届けるようにするかが重要ではないだろうか。

中山委員 タウンニュースは、比較的皆が見る。黙っていても毎週金曜日に玄関に入ってくる。知らない人から声をかけられることもある。

稲富委員 今は、新聞契約をしていない人が多い。

中山委員 タウンニュースをとっていない人に文字で知らせることが出来る様な方法をとってはどうか。

稲富委員 ここのテーマにあがったように伝え方の問題が明確だと思う。

事務局 区のホームページは、基本的には行政情報を掲示しているが、今回なかはらメディアネットワークを発足して、区のホームページの中にメディアネットワーク専用のページを設けた。そちらにアクセスしていただくとメディアネットワークの状況が分かる。その中でイッツコムとか川崎 FM をクリックしていただくと入っていく事が出来る。11月1日からイッツコムで流した番組をユーチューブで見られるように作業を進めている。イッツコムで取り上げた地域の紹介が区のホームページから見られるようになる環境が整えられつつある。

稲富委員 組織の中でホームページを持っているが、興味が無いとみない。ホームページは、見たい人が見に来るので、興味が入口に立たないと見ない。登録いただいたメールアドレスに何かを更新すると更新しましたと飛ばす仕組みを入れている。イベントがあがるので見る。区のホームページにも取り入れてほしい。

梅原委員 団塊の世代が無職になっているので、中山委員のガイドをある程度ガイド料を取って、訓練してガイドになってもらいたい。中原には、こういうものがあると PR をどんどんしていく。

中山委員 前は、一人いくらかと払ったが、要請が多いので一人300円と決めて、保険代と資料代を頂いている。

事務局 ニーズは多いのか。

中山委員 私は、今は中原街道を主にやっているの、そろそろ中原区の中原街道は、卒業しようとしている。

梅原委員 こういうのが知りたいと連絡すると、この人が知っているというガイドしてくれるようなシステムがあると便利でよい。

事務局 現在、案内する活動は結構あるのか。今は、知らないということだけを取り上げられるが、ニーズが沢山あった時に活動としてやれるのか、組織が大きくなった場合支援が無いと出来ないのか、担い手の問題であると思うが。

稲富委員 自分に関係があるかということが入口にある。自分が活動していて活動している側が伝えたい情報と受け手側の興味を引く情報が整理されていない結果、これだけ魅力があるのに伝わっていないということで、魅力発信がテーマになったと思うので、そこの議論をきちんとする必要があると思う。またその時に情報発信をする方法・手段というのがある程度でできたら、情報提供をしてくれる団体はどこなのか。

中山委員 皆さんの魅力と同じで、男性と女性でも違うし、年代も違うので、生き様が魅力として出てくる。皆さんが考える魅力はそれぞれ皆違うので、発信する方も難しい。

稲富委員 人が集まるイベントで、それぞれの年齢層がいて、一辺倒に情報発信をしてしまうと分厚い資料になるわけで、20代層や子ども達とか60代以上とかの区切りをつけて情報の発信の仕方をしていく。そこに集まってくる年代を考えて落とし方を考えていくのは必要である。

板倉部会長 受け側の情報や要求をどうやってとるか。

稲富委員 例えば井田山の魅力についての発信を例にとると、山でいったら子ども達は関心を持たない。カブトムシが採れるといったら興味を引く。世代に合わせた魅力を感じる情報の提供をする。アンケートなどで魅力を感じているかどうかを聞く。

梅原委員 次から次へといろんな情報を流すのは、効率が悪いと思うが。

橋本委員 話は違うが、カブトムシを掘ると掘りっぱなしで帰ってしまうことが問題になっている。

稲富委員 先程も自転車マップで自転車のルールを教えていたようにカブトムシを採る紹介をする際にちゃんとルールを教えるのも方法だと思う。

事務局 中原区は、沢山の魅力資源や活動もあるが、住民の人にどういうふうに情報が届くか、ただ情報を流すのではなくて、欲しい人に欲しい情報が行くかが重要である。活動と担い手、また情報発信の方法を考えたい。情報発信を行うためにいろんな団体との連携をする。例えば、企業・団体の目的があると思うし、フロンターレには人が集まるので、そこと連携してPRしていく。なかはらメディアネットワークも含めて、既存している所と連携して情報発信をしていく。今ある既存の取り組みから情報が欲しい人へつながっていくその中間をもう少し整理する必要があり、議論していく。

板倉部会長 次回、まとめの方向にもっていきたいが、場合によってはもう1回増やしないと整理がつかない可能性もある。

事務局 次回は、11月25日（月）午後1：30からを予定している。

以 上